

世界史研究推進委員会

共同研究 「世界史における異文化との接触と交流」ヨロ

ロッパとの出会い」および「世界史への興

味・関心を育む教材・指導法の研究」経過報告

清水水高校 堀 部 宏 人

今年度、世界史研究推進委員会メンバーが社会科部会の研究発表会および全国歴史教育研究大会で行った発表は、次のとおりでした。

○ 「世界史における旧説と誤解」古代史を中心に

小林克則（厚木商業）

○ 「イスラム史における新旧教科書の比較」高校教員の

教わったものと教えているもの」 智野豊彦（市立東）

○ 「世界史における旧説と誤解」 小林克則（厚木商業）

古川寛紀（上郷）

これらは主に近年の歴史研究の成果で教科書の記述がどのように変わってきたかを検証してきた結果を発表したもので、委員会のメンバーが小林先生の提案を受けて行ったものと言えます。

私たちが生徒として学んだ一九七〇年代頃の教科書と現在のものを比較すると、大きな歴史像の変化が随所に見られます。この指摘を受け、全歴研栃木大会では、智野先生がイスラム世界について我々が教えるべきことは何かを新しい視点から提起しました。共同研究テーマとのつながりを述べるならば、とかくヨーロッパを中心に眺めがちな姿勢を改めようというのが主旨で、これまで見逃されていた歴史常識の落とし穴や誤りを正し、さらにあまり光の当たら

なかった事項に着目し、より広い視野から世界史を捉え直そうとしたということです。従来から世界史研究推進委員会では、メンバーが新しい世界史をどう教えていくかについて授業実践の報告を重ねていますが、今後も情報発信を続けたいと思います。

今年度の新たな試みとしては、JICA横浜で訪問学習をしたことが挙げられます。海外移住資料館を見学し、移民学習のための教材について講義を受けましたが、展示品を通じて移住先での人々の生活や思いを体験できました。世界史学習でも今後はこのような校外施設の積極的な活用を考えたいと思います。

さらに恒例となった本委員会メンバーによる夏期集中講座では、「辺境からの世界史」と銘打ち、ラテンアメリカ史、アフリカ史、モンゴル・中央アジア史などについて公開授業を実施しました。特に八月二十九日には大阪大学の桃木至朗教授を講師に迎え、東南アジアをどう捉えるかについて近現代を中心に語っていただきましたが、パワーポイントを有効に使った印象的な授業には多くの参加者が感銘を受けました。

このほか定例の研究会では、授業プリントや観点別評価の取り入れた試験問題の公開なども行いました。加えて八月に行われた大阪大学での研修報告など、活発な情報交換も行っています。なお、本年度は研究推進委員会の会場として以下の会場をお借りしました。

- ・ 外語短大付属高校・四月十九日、六月二十八日（日本史研究推進委員会と合同）、八月二十九日、十二月三日

- ・ 逗子開成高校・十月五日
- ・ JICA横浜・二月七日

関係者および関係諸機関のご理解とご協力に感謝いたします。